

4 指導上の改善ポイント（英語）

中学校

聞くこと

この問題をチェック → ③

出題の趣旨

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題である。

結果状況と授業改善のポイント

本市の正答率は46.4％であり、他の聞き取り問題と比べて低い結果となった。

授業改善にあたっては、最初に自分の置かれた立場や状況を正確に理解し、全員で確認・共有した上で、Q&Aによる聞き取りを行い、次に振り返りながら繰り返し聞き取り、正答を確認する活動を取り入れたい。

③（放送問題）

あなたはイングリッシュキャンプに参加しています。これから、2班のリーダーとして明日のバーベキューパーティーについて説明を聞くところです。説明を聞いたあと、質問が放送されます。質問の答えとして最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 To tell your group members about your group's job.
- 2 To make the fire and cook rice.
- 3 To cut the vegetables and the meat.
- 4 To cut the vegetables and set the tables.

指導の具体的例

天気予報や交通状況などの日常的な話題について、自分の置かれた状況をもとに、聞き取る課題（例：週末登山に行く計画をしているが天気はどうなのだろう？）を設定した場合、以下のような指導が考えられる。

- ①一斉活動で、自分の置かれた立場や状況（例：週末に登山に行く）を共有し、理解できているかを確認する。最初に、聞き取るべき内容（登山の予定日や前日の天気）やターゲットとなるキーワード（Saturday, Sunday, mountain area, ○○ town など）を予想することが重要である。
- ②音声を流し、生徒はメモを取りながら聞き取った後、教師がどこまで聞き取れたかを確認し、聞き取るべきポイントを再度確認する。その後、改めて音声を流し、2回目の聞き取りを行う。教材の難度に応じて、場合によっては2回目の聞き取りは行わなくてもよい。
- ③グループの協働活動として、聞き取った内容を共有し、生徒が自ら聞き取れた部分と聞き取れなかった部分をディスカッションしながら確認【**🔄協働的な学び**】した後、生徒各自が個別活動として、一人一台端末を使い、オンライン上の音源にアクセスし、自分の聞き取れなかった部分を、速度を変えるなどして、繰り返し聞きながら、聞き取るべき内容を明らかにする【**🔄個別最適な学び**】。その後、グループの協働活動に戻り、各メンバーが聞き取れた部分を共有しまとめる。まとめた内容は、あらかじめ用意しておいたオンライン上のグループごとのシートに、協力して英語で書き込むなどのライティング活動につなげることができる【**🔄協働的な学び**】。
- ④一斉活動に戻り、各グループが書き込んだシートの内容を共有し、聞き取るべき正しい内容を確認する。聞き取るのが難しい部分が明らかになるので、ここで再度音声を流して、正しい内容を確認してもよい。
- ⑤活動を振り返り、自分の置かれた状況をもとに聞き取るときに、何に気を付け、どのように聞き取るとよいのかを、あらかじめ用意したオンライン上の振り返りシートに生徒が一人一台端末を使って書き込み、その後、全体で聞き取りにおけるポイントを共有し、まとめる。

読むこと

この問題をチェック → ⑥

出題の趣旨

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題である。

結果状況と授業改善のポイント

本市の正答率は 39.5% であり、読み取り問題の中で 2 番目に低い結果となった。必要な情報を本文から全て読み取れていないことによる誤答が多くみられる。

授業改善にあたっては、現実に近い日常的な場面を設定し、生徒が自分の置かれた立場や状況から必要とする情報を探しながら読み取り、その情報に合った内容をできるだけ短時間で選択する活動を取り入れたい。

⑥ 次の英文は、友達の大衛（David）があなたに送ったメールです。メールを読んで、大衛におすすめのイベントとして最も適切なものを、右の 1 から 4 までの中から 1 つ選びなさい。

Events on the Weekend

Date April 13, 2023 18:45

From David

Hello. How are you?

I'm excited to stay at your house this weekend.

I hear your town has some events on the weekend. I want to join one of them with you. Which event is the best? We both love sports, music, and cooking, right? Let's choose from among them.

I will arrive on Saturday afternoon. I have to leave before 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.

I'm looking forward to seeing you soon.

1 Rugby Game

Let's watch together!

Date & Time
Saturday, April 15
9:30 a.m. - 11:30 a.m.

Place
Midori Park

2 Flower Market

You can buy beautiful flowers!

Date & Time
Saturday, April 15
9:00 a.m. - 4:00 p.m.

Place
Hsuri Garden

3 City Orchestra

You can enjoy a wonderful performance!

Date & Time
Sunday, April 16
1:00 p.m. - 3:00 p.m.

Place
Tsubomi Hall

4 "Cook & Eat"

Let's enjoy cooking and eating!

Date & Time
Sunday, April 16
4:00 p.m. - 7:00 p.m.

Place
Cooking Room "Wakaba"

(注) Market: マーケット Orchestra: オーケストラ

指導の具体的例

電子メール、広告、パンフレット、取扱説明書などに書かれている短い文章について、まず、現在置かれた立場や状況をクラス全体で理解・確認してから、生徒各自が文章を黙読し、必要とする情報を読み取って、グループや全体で共有する活動を取り入れたい。

- ①一斉活動で、課題（例：複数の体操教室のパンフレットと、ある生徒の 1 週間のスケジュールを見ながらおすすめの体操教室を探す）を共有し、立場や状況が理解できているかを確認する。最初に、読み取るべき内容（ある生徒のスケジュールと体操教室がいつどこでどの体育館で行われているか）やターゲットとすべき語（at, in, on などの時間や場所を表す前置詞から続く語）をしっかりと確認することが重要である。
- ②個別活動として、重要だと考える内容をメモしたり下線を引いたりしながら、探し読みを行う。その際、制限時間を設定し、限られた時間の中で課題解決につながる情報を探し出す活動とする。時間が足りない場合は、再度制限時間を指定して活動が続ける。
- ③ペアやグループでの協働活動として、各自が探し出した内容を共有し、異なる内容がある場合は、ディスカッションしながら、理由とともに探し出すべき内容を確認する【**〆協働的な学び**】。
- ④一斉活動で、探し出すべき内容と課題の答えを確認する。
- ⑤個別活動に戻り、再度読み、語句や表現で意味が分からないものがある場合は、各自が一人一台端末を利用して調べ、オンライン上の振り返りシートなどの学習履歴に残しておく【**〆個別最適な学び**】。
- ⑥思考力・判断力をさらに駆使させる活動として、生徒が自らの 1 週間のスケジュールを作成し、それをもとにどの体操教室がよいかを再度読みながら考え、選択する。
- ⑦グループでの協働活動として、各自が選択した体操教室について、その理由とともに口頭で発表し、その後、発表した内容についての Q&A を行う。
- ⑧活動を振り返り、置かれた状況をもとに探し読みする上で、何に気を付け、どのように読んだらよいのかを、あらかじめ用意したオンライン上の振り返りシートに生徒が一人一台端末を使って書き込み、その後、全体で探し読みにおけるポイントを共有し、まとめる。

- 59 -

第 2 章

話すこと（やり取り）

この問題をチェック → 「話すこと」 ① (4)

出題の趣旨

日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる問題である。

結果状況と授業改善のポイント

全国の正答率は 16.1 %（参考値）と低い

結果となった。不正解となった解答類型の中で多かったのは、理由を答えていないもの（49.5 %）で、無解答も多かった（17.8 %）。聞き取る内容の理解が十分にできていないため、どのように答えてよいか分らなかったり、理由を話すための考えをまとめられない、あるいは、考えを適切に伝えるために必要な文法や表現が身に付いていなかったりすることが答えられなかった原因だと考えられる。

授業改善にあたっては、日常的で身近な話題に関する発話や録音音声などから得た情報や考えをもとに、ペアやグループでお互いに意見を出し合ったり、情報を交換したりする活動を設定することで、やり取りする力を高める指導を行うことが考えられる。

(4)

(スクリプト)
I want to buy a gift for my host brother. He is only 4 years old. Which one should I buy for him, a picture book, animal cookies or a T-shirt? And why do you think so?

指導の具体的例

日常的で身近な話題に関して、教師の発話や録音教材から流れてくる情報を聞き取り、視覚教材も用いながら、適切に応答する課題（例：自分の住む地域の観光をする ALT にどこを訪れたらよいかを提案する）を設定した場合、以下のような指導が考えられる。録音教材はあらかじめ 2 種類（選択解答用と自由解答用）を用意しておく。

- ①一斉活動で、状況や場面（日本に来たばかりの ALT）と活動の目的（ALT の希望を聞いて、適切な訪問地を提案する）を確認する。その際、ALT が発話の中で使いそうな語句や表現（I like... , I' d like to see / eat / buy... など）を予想したり、自分で提案するために使う表現（You should visit... because... ）を確認したりして、全体で共有しておくことが重要である。
- ②全体で ALT の録音教材（選択解答用）を聞きながら、メモを取る。
- ③個別活動として、聞き取った内容をもとに、ALT に提案する訪問地として最もふさわしいものを考え、その理由とあわせて、英語で表現するための準備をする。ALT の発話をあらかじめ録音しておき、一人一台端末を使ってその録音教材にアクセスし、再度聞いて、提案する内容が希望と合っているかを確認する【**個別最適な学び**】。
- ④グループでの協働活動として、提案すべき訪問地を述べ合い、正答を確認する。選択結果が異なっている場合は、ディスカッションをしたり、再度グループ全員で録音教材を聞きながら、正しい選択肢を考えたりする【**協働的な学び**】。
- ⑤一斉活動で正解を確認する。また、録音教材（自由解答用）を聞き、②、③と同じように活動を進める。
- ⑥グループの協働活動として、それぞれの提案する訪問地とその理由をやり取り（You should visit... / Why... ）の形を使って共有し、お互いにコメントを伝え合う（That sounds interesting! , I don' t know that place. など）【**協働的な学び**】。
- ⑦一斉活動で、1 グループにつき代表者一人が提案したい訪問地を教師や ALT と生徒のやり取りを通して発表し、共有する。教師は文法や語の選択に誤りがある場合は、発表の後、全体で振り返りながら、正しい形について確認をする。
- ⑧活動を振り返り、発表において何に気を付けるべきか、あらかじめ用意したオンライン上の振り返りシートに生徒が一人一台端末を使って書き込む。

話すこと（発表）

この問題をチェック → 「話すこと」②

出題の趣旨

社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる問題である。

結果状況と授業改善のポイント

全国の正答率は4.2%（参考値）と低い結果となった。不正解となった解答の中で多かったのは、自分の考え、理由のどちらも答えていないもの（50%）で、無解答も多かった（18.8%）。問題文の指示を十分理解していない、あるいは、聞き取る内容の理解が十分にできていないため、どのように答えてよいかが分からなかったり、話すための考えをまとめることができない、また、必要な文章構成力や表現力が身に付いていなかったりすることが原因だと考えられる。

授業改善にあたっては、複数の領域を統合した言語活動を充実させること、例えば、聞いたり読んだりしたことについて、ペアワークやグループワークで話したり書いたりする活動が考えられる。

英語② 説明を聞いて、考えとその理由を話す

英語の授業で、ニュージーランドから来た留学生が環境問題についてのプレゼンテーションをしています。その発表やスライドの内容をもとにして、あなた自身の考えとその理由を英語で伝えましょう。1分間話す内容を考えたあと、30秒で話してください。メモを取ってもかまいません。それでは、プレゼンテーションを聞きましょう。



(スクリプト)

Do you buy plastic bags at the store? Or, do you use eco bags? Look at this picture. There are many plastic bags in the sea. It is a serious problem today. Now, look at this. I was really surprised to see this because over 25 % of people in Japan buy plastic bags at stores. In New Zealand, stores do not sell plastic bags and we take eco bags. Some people may say plastic bags are becoming more eco-friendly, but I recommend stores in Japan should stop selling plastic bags. What do you think?

指導の具体的例

賛否が分かれる社会的な話題に関して、音声教材、あるいは読解教材の内容を理解した上で、口頭で賛否とその理由を述べ、作文でまとめる課題を設定した場合、以下のような指導が考えられる。

- ①一斉活動で、課題（例：教材を読んだり聞いたりして、その内容に賛成か反対かを考え、その理由とともに口頭で述べた後、作文して考えをまとめる）の目的を確認する。
- ②個別活動として、制限時間を設定し、生徒が自分のペースで一人一台端末を利用しながら、教材を読んだり聞いたりして教材の内容について理解し、賛成か反対かを決定する。生徒は読んだり聞いたりするときに、キーセンテンスに下線を引いたり、メモを取ったりする【🎯個別最適な学び】。
- ③一斉活動で、教材の内容を確認する。理解が不十分な場合は、再度個別活動で理解を深めてもよい。
- ④教材の内容が理解できたことを確認した後、個別活動として、賛成・反対の理由を考え、発表で使うキーワードをメモする【🎯個別最適な学び】。
- ⑤グループでの協働活動として、各自が賛成・反対を述べた後、メモを見ながらその理由を発表する。発表者以外は、聞きながら配付されたワークシートに発表者について記入する。次に、それぞれの発表に対して、内容と文法・語彙などの面から一人一台端末を使ってコメントし合う【🎯協働的な学び】。
- ⑥個別活動として、受けたコメントをもとに、発表内容を再考し、一人一台端末を使って教師と共有されたスペースに書き込む。
- ⑦一斉活動で、教師は賛成・反対の双方からいくつかの例を取り上げ、生徒を指名して、口頭で賛成・反対とその理由を教師と生徒のやり取りとして、発表させる（Do you agree with ... ? → Yes, I agree with ... / No, I don't agree with ... → Why? → ...）。そのとき、語句や文法構造などに誤りがあれば、非明示的な修正方法を使って、正確な英語の使用について、気づきを起こさせるよう工夫する。
- ⑧活動を振り返り、あらかじめ用意したオンライン上の振り返りシートに生徒が一人一台端末を使って書き込む。

書くこと

この問題をチェック → 10

出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題である。

結果状況と授業改善のポイント

本市の正答率は9.1%であり、他の書くことの問題と比べてかなり低い結果となった。

前回調査時における同種の問題の正答率が2.5%であったのと比較すると改善傾向がみられるが、無解答も多く(22.9%)課題がある。

授業改善にあたっては、日常的な話題について、簡易な英語を使って3~5文程度のまとまりのある文章を作成し、作成した文章について語彙・文法の正確さと文章の一貫性の視点から振り返りを行い、書き直しをしながら作文力を高める活動を取り入れたい。

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開いています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

※ 短縮形(I'mやdon'tなど)は1語と数え、符号(、や?など)は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

指導の具体的例

学校生活や身近な体験について、電子メールやレポート、プレゼンテーションの原稿などの形式で、事実を伝えたり、自分の考えを述べたりする文章を書く課題(例:学校行事の思い出についてALTに電子メールで伝える)を設定した場合、以下のような指導が考えられる。

- ①一斉活動で、どのようなトピックについて、何を目的に、どのくらいの語数や文章で書くか(例:修学旅行について3~5文でALTに電子メールを書く)を提示し、授業の見通しをもつ。最初に文章構成・内容の一貫性についてのポイント(「導入-本論-結論」や「主題-例-まとめ」など)や文法のポイント(文をつなぐときの接続詞や代名詞の使い方など)と、事実を述べる文章(動詞の過去形を使った、We visited ..., I ate ..., He bought ...)や考えや気持ちを伝える文章(形容詞を使った、I was [felt] happy[surprised] to...)、語彙にはどのようなものがあるかを復習する。
- ②個別活動で、修学旅行の資料や写真、しおりを見返しながら、旅行時の体験や事実を簡易なリストにし、そのとき考えたことや気持ちをリストの横にメモをする。リストが完成したら、伝えたい内容を3つ程度に絞り込む。
- ③続いて個別活動として、絞り込んだ内容と自分の考えや気持ちを、英語で一人一台端末を使ってまとまりのある文章にして表現してみる。英語にできない、あるいは自信のない語や表現は、辞書等の助けを借りながら英語にし、文章を作成する【**▽個別最適な学び**】。
- ④グループでの協働活動として、作成した文章をグループ内の他の生徒と共有し、お互いに読み合い、コメントをし合う【**▽協働的な学び**】。コメントをするときの評価の視点(例:内容と文法や語彙、スペリングなど)についてはあらかじめ、教師から提示し、説明しておく。
- ⑤個別活動に戻り、グループから受けたコメントを参考に文章を書き直し、一人一台端末を使って提出する。
- ⑥一斉活動として、教師が提出された作文をいくつか取り上げ、全体に分かるように提示しながらコメントをしたり、課題点を指摘したりする。
- ⑦活動を振り返り、日常的な話題について事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くときに、どのような手順で何に気を付けて行えばよいのかを、用意したオンライン上の振り返りシートに生徒が一人一台端末を使って書き込み、その後全体でポイントを共有し、まとめる。